図書館年報を分析する⑤　＜表Ｆ＞全国比較

２位とか３位とか言うけれど
数値の出所が皆目分からない

＜表Ｆ＞　貸出数（千点）　全国公共図書館との比較(人口 11 万人台の市)		
平成 25 年度(2013)	三田市 3 位	1097　(年間実績数 1,097,294) 貸出概況数と同値
平成 26 年度(2014)	三田市 2 位	1130　(年間実績数 1,130,175) 貸出概況数と同値
平成 27 年度(2015)	三田市 2 位	1129　(年間実績数 1,113,734) (貸出概況数 1,085,745) 1085
平成 28 年度(2016)	三田市 2 位	1080　(年間実績数 1,057,789) 貸出概況数と同値 1057
平成 29 年度(2017)	三田市 3 位	1050　(年間実績数 1,055,981) (貸出概況数 1,057,333)　1057
<注>赤字表記の数値は「年間実績(指標)」に表記されている貸出数。青字は「貸出サービス・概況」に記載されている貸出数。概況の数値が基礎となる数値で、この両者は本来同一になるもの。しかし 27 年度以降、この数値と「他館との比較」(千分の一)の数値と整合していない。そのうえ、27 年度、29 年度の「年間実績」(赤字表記)の数値が年報のどこから引いてきたのか全く分からない。「貸出サービス・概況」を基にすれば、27 年度は 1085、28 年度 1057、29 年度 1057(黄色表記)とならなければならない。27 年度、28 年度はこれより大きな数値が「比較表」に記載されている。		

三田市立図書館の実績は全国の人口同規模の市の図書館と比べ、どの程度の位置にいるかを計る指標として、年間の「個人貸出点数」が使われます。その数値は「千の単位」で示されることになっています。年報の「（３）利用状況②全国公共図書館との比較」という表がそれです。三田市はここ数年間１００万冊を上回る貸出数を誇ってきました。全国の人口規模１１万人の市の中で、長期間にわたり２位、３位と上位を占めてきました。

＜表Ｆ＞は市民の会が作成した、５年間の「貸出数(千点)」と「貸出点数の実数」を一覧表にしたものです。但し、年報の「（３）利用状況②全国公共図書館との比較」表には注釈があり、２７年度版までは＜**他市統計は**『日本の図書館２０１５』より引用＞となっていました。これは、三田市の数値は当年度のものだが、他市のものは前年度の数値だという意味です。それが２８年度からは＜**統計は**『日本の図書館２０１６』より引用＞と変わりました。この文言の変更については市に問い合わせて、「三田市も他市に合わせて前年度の数値を使っているという意味だ」との説明を受けました。つまり、１年遅れになるけれども、「他市と比較年度を合わせた」ということです。これは同じ条件での比較、ということですから正しい変更だと考えます。

一応そのことは脇に置いて述べていきます。

＜表Ｆ＞の注記に簡単に記していますが、「全国公共図書館との比較」表の数値は、年報の「（６）貸出サービス①概況（団体貸出分を除く）」の貸出点数合計の数値を、「千の単位」まで使います。そして、「（６）貸出サービス①概況（団体貸出分を除く）」の貸出点数合計の数値は、「（３）利用状況①年間実績（指標）」の各項目に使われる「貸出点数」と同じで

なければなりません。

「全国比較」表の数値　直営時代は問題なし

そこで具体的に見て行きます。

直営最終の平成２５年度版とＴＲＣ運営初年度・２６年度版の数値にはまったく問題がありません。「（６）貸出サービス①概況（団体貸出分を除く）」の貸出点数合計と、「（３）利用状況①年間実績（指標）」の各項目に使われる「貸出点数」の数値は全く同じです。そして、その数値と「全国公共図書館との比較」表に記載された「千の単位までの数値」はピタリと整合しています。

「貸出点数」が複数登場、どれも比較表と一致しない

ところが、ＴＲＣ運営になって２年目の翌２７年度から変なことが起きています。

まず、「貸出点数」の合計数値が複数登場したのです。一つは「６.活動（１）年間実績(指標)」に登場する**１,１１３,７３４点**という数値、もう一つが「（６）貸出サービス①概況」の**１,０８５,７４５点**という数値です。**＜表Ｆ＞**には入れていませんが、この他にも「③資料別貸出点数」には**１,１０８,９９９点**という数値、「④年齢区分別貸出状況」に**１,１１３,６３７点**という数値が記載されています。それぞれの数値は同一データではなく、あるいは資料の一部が除外されたものかもしれません。しかしそれにしても、この四つの数値のどれ一つとして、比較表の「貸出数(千点)」の**「１１２９」**と合致しないというのは何故でしょうか。「１１２９」はどこから導き出された数値か皆目分かりません。

比較表数値の根拠が分からない、注記とも合わない

次に２８年度版では「（１）年間実績(指標)」の**１,０５７,７８９点**と、「（６）貸出サービス①概況」の数値は同じでした。しかし、「③資料別貸出点数」は**１,０６９,１８７点**、「④年齢区分別貸出状況」は**１,０７３,５２９点**とそれぞれ異なっています。そして、この三つの数値のどれも、比較表の「貸出数(千点)」の**「１０８０」**とは整合しません。この数値が一体どこから導き出されたのか、この年もまったく分かりません。

さらに、前記**＜表Ｆ＞**の注釈に従えば、この年からは、全国各市と同一年で比較するために、「前年度の数値」を使っているはずです。したがって、本当なら２７年度の数値と同じ「１１２９」がここに表記されていなければならないのです。しかし、そうはなっていません。もっとも、「１１２９」が間違っていることに気が付いて、改めて正しい数値を表記した可能性はあります。そこで、改めて２７年度の数値を点検してみましたが、やはり「１０８０」の数値は見当たりません。注釈の変更にもかかわらず、使用数値の「年度変更」は行われなかったのか、それとも数値自体が間違っているのか、真相は闇の中です。

支離滅裂状態、全国比較する意味がない

そして２９年度版。「貸出数(千点)」は**「１０５０」**となっています。しかし、「（１）年間実績(指標)」は**１,０５５,９８１点**、「（６）貸出サービス①概況」は**１,０５７,３３３点**、「③資料別貸出点数」は**１,０７０,８００点**、「④年齢区分別貸出状況」は**１,０７５,０４**

１点と四つの数値すべてが異なっているばかりか、「１０５０」に見合う数値はどこにも見当たりません。「**１０５０**」は一体どこから導き出された数字なのでしょうか。まったく理解に苦しみます。

また、同様に注釈の変更に従えば、ここは前年度の「１０８０」と表記されなければならないはずですが、これもそうなってはいません。支離滅裂で不可解です。

意図的水増し・改竄の疑いすら生じる

このように、「他市との比較」という最も重要な「指標」にさえ、出所不明の数値が使われています。それに加え、「比較表」の数値は、２７年度で４万４０００点(冊)、２８年度で２万３０００点(冊)も、基準となるべき数値より多くなっているのです。このことは年報のデータ全体に不信感を抱かせます。意図的に水増ししたのではないか、という疑問が生じます。兎に角、高い数値をでっちあげて図書館運営が順調なことを印象付けようとしたのではないか、という疑念です。ここまでくると「データ改竄」の疑いさえ出てきます。こんなことで全国比較をしても全く無意味と断ぜざるを得ません。